

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
課題評価委員会事後評価意見

研究開発課題名	Evolution, antimicrobial resistance, and virulence determinants of <i>V. parahaemolyticus</i> in aquatic birds and environments in Thailand / タイの水鳥および環境に由来する腸炎ビブリオの進化、薬剤耐性、および病原性決定因子の解明
研究開発機関	大阪大学
研究開発代表者・役職	松本 悠希・特任助教（常勤）
研究開発期間	令和 5 年 9 月 15 日 - 令和 7 年 3 月 31 日

○課題評価委員会事後評価意見

評価された成果

- 腸炎ビブリオ菌（Vp）の薬剤感受性試験や全ゲノム解析を実施し、国際共同研究の枠組みの中で薬剤耐性遺伝子の環境伝播経路の実証に繋がる重要な初期成果を得た。
- 日本はゲノム解析、米国はゲノム系統解析、タイは大規模サンプリングおよび薬剤耐性プロファイルの作成、とそれぞれのサブチームの固有のリソースや解析技術等の専門性を活かした相互補完的な体制のもと、日本を中心としてプロジェクトが計画的に遂行された。

課題・改善点

- 解析対象の違いや実施時期のずれなど、チーム連携がやや不完全な部分も見受けられた。可動性遺伝因子の伝播を分析する目標計画は十分に達成されず、全体的な統合解析は未完了である。サンプリングのタイミングを合わせ、可動性遺伝因子伝播に関する追加解析が望まれる。
- 本研究で取得した菌株は特定の地域に限定されており、その水鳥由来株や環境水由来株が地域を超えた普遍性を有しているか評価できない。複数地域からのさらなるサンプル収集や追加解析に向け、タイの研究者へのフィードバックや相互トレーニングを含め、今後さらなる緊密な連携と調整の深化が求められる。
- 今後の具体的な戦略の明示が望まれる。短期的には本研究のサブチーム間のデータの齟齬の解消、長期的には地球規模における Vp の病原性や薬剤耐性の水平伝播モデルの構築、公衆衛生に資する疫学調査の次の研究内容、などが挙げられる。